

- (1) 天地万物の創造主なる神がおられる
- ① 天地創造・・・創 1：1
  - ② 何かの理由で地は茫漠として何もなくなり、大水（海）によって覆われ、闇に包まれた・・・創 1：2a
  - ③ その理由とは、天使の中でも最高位にいて、地の支配権を与えられていた天使がサタンになったから。天使の中から三分の一がサタンに付き従い、悪霊となった・・・エゼ 28：11～19、黙 12：4「天の星の三分の一」
  - ④ 天地の再生・・・創 1：2b～31
  - ⑤ 人の創造・・・創 1：26～28、2：7、2：18～24
  - ⑥ 神は愛である（Iヨハ4：16）。愛は、「愛し、愛される関係」があって成り立つ。よって、神は唯一であるが、神ご自身の中に「愛し、愛される関係」がある（ヨハ15：9）。神は、父なる神、子なる神、聖霊なる神の三位一体である（マタ28：19「父、子、聖霊の名（単数形）」
  - ⑦ 神は、人と「愛し、愛される関係」になるよう、人をロボットのようにはなく、自由意思を持つ者として、人を造られた・・・創1：26「人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう」、創3：8「そよ風が吹くころ、神である主が園を歩き回られる」＝人と語らい、人と愛し合う関係を求めて
  - ⑧ 人は造られたとき、人の内に罪は無く、無垢なる者であった。しかし、自由意思を持つ者として罪を犯す可能性があった。人は、その意思をもって神の命令を守り続けることで、ある時点で聖なることが確定するはずであった。その命令とは、「善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ」。神のみこころに従うことが善であり、従わないことが悪である、ということ認め、食わずにいることが求められた。そうすれば人は聖なることが確定し、罪を犯すことのできない存在になるはずであった【この説明は、聖なる天使が、悪霊にならずに、聖なることが確定していて、罪を犯せない存在になっていることからの類推】・・・創2：16～17
  - ⑨ しかし、サタンが蛇を用いて、人に「あなたがたは決して死にません。神のようになって善悪を知る者となる」と言って誘惑したとき、人は誘惑にはまり、神の命令を破った。人は神の示す善悪を退け、自分で善悪を判断する道を選んだのである。このとき、人の中に、神を避け、神なしで考えて行動する性質、すなわち罪の性質が入り、人は死ぬものとなった。
    - 誘惑・・・創3：1～7
    - 人は神のようになって自分で善悪を判断するようになった・・・創3：22
    - 神を避ける・・・3：8「主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した」
    - 罪の性質が入り、死ぬものとなった・・・3：19「土のちりに帰る」、ロマ5：12
  - ⑩ 使徒たちのメッセージ・・・使14：8～18、17：16～34

- (2) 人は神を知りながら、神に背を向けている
- ① 自然界を通して神の存在を知る・・・詩 8 : 3~4、イザ 40 : 12~28
  - ② 人に弁解の余地はない・・・ロマ 1 : 19~21、28~32
- (3) 神は人の行いをさばく日を決めておられる
- ① 旧約預言・・・詩 9 篇~11 篇、詩 110 : 5、ハガイ 2 : 21~23、ゼカ 14 : 1
  - ② 教会の信者「キリストの裁きの座」 I コリ 3 : 10~15、4 : 5、II コリ 5 : 10
  - ③ 大患難期を生き延びた諸国民のさばき・・・マタ 25 : 31~46
  - ④ メシアの王国（千年王国）の後、大きな白い御座のさばき・・・使 10 : 42~43「死んだ者のさばき」、17 : 29~31、ロマ 2 : 2~16、8 : 1、黙 20 : 10~15
- (4) 神のさばきで無罪となる人は、ひとりもない・・・詩 14 : 1~3、ロマ 3 : 9~20、3 : 23、ガラ 2 : 15~16
- (5) 神は人を愛し、救いの道を備えておられる
- ① 「女の子孫」【男が関係しないで女から生まれる人＝神が人となって来てくださり、罪に堕ちたアダムとエバを救ってくださる】・・・創 3 : 15、4 : 1「私は、主を、一人の男子を得た」（原文は、「主によって」ではない。カインはキリストではなかったが、エバは「女の子孫」の意味を正しく理解していた）
  - ② 血の犠牲を予表する・・・創 3 : 21
  - ③ アブラハムの信仰を手本として、全世界の人々に祝福を与える・・・創 12 : 2~3、特に 3 節 b「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」、創 15 : 1~6、ガラ 3 : 6~9
  - ④ アブラハムの子孫（＝キリスト）を通して、全世界の人々に祝福を与える・・・創 22 : 18、ガラ 3 : 16
  - ⑤ 父なる神が備えてくださった・・・ヨハ 3 : 16~18、ロマ 3 : 21~30、4 : 3~8、ガラ 1 : 4、I テモ 2 : 4~6
- (6) イエス・キリストは私たちの罪のために十字架にかかり、死んでくださった。十字架を仰ぎ見ると、人は神の愛を知ることができる
- ① 十字架にかかる必要性・・・レビ 17 : 11、申 21 : 23
  - ② イスラエルの罪のために・・・イザ 53 章
  - ③ 異邦人の罪のためにも・・・ガラ 3 : 13~16
  - ④ 十字架の予表・・・民 21 : 4~9、ヨハ 3 : 13~15
  - ⑤ 十字架刑の記事・・・ルカ 23 : 32~49
  - ⑥ 私たちの罪のために・・・I コリ 15 : 3、ガラ 1 : 4、I テモ 2 : 4~6、I ヨハ 4 : 9~10

- (7) イエス・キリストは死んで墓に葬られたが、3 日目に復活し、復活してから 40 日目に天に昇り、父なる神の右の座に着いた（神と同等のお方であるの意味）
- ① 墓に葬られるとの預言・・・イザ 53 : 9
  - ② 神はアブラハムを復活信仰に導いた・・・創 15 : 5~21、17 : 8、22 : 5、ヘブル 11 : 17~19、マタ 22 : 31~32、使 13 : 32~33、
  - ③ キリストが復活するという預言・・・詩 16 : 10、使 2 : 25~32
  - ④ イエスをキリストではないと拒否したユダヤ指導者層に対して、イエスは「もはや奇跡を公然と見せない。ただし、『ヨナのしるし』だけは見せる」と言われた。ヨナのしるしとは、死んで 3 日ないし 4 日後によみがえることである・・・ヨナ 1 : 17、マタ 12 : 39~40
    - ヨナのしるし第一＝ラザロのよみがえり・・・ヨハ 11 : 1~53
    - ヨナのしるし第二＝イエスの復活
    - ヨナのしるし第三＝大患難期における二人の証人の復活 黙 11 : 3~13
  - ⑤ 墓に葬られ、3 日目に復活した・・・ルカ 23 : 50~24 : 35
  - ⑥ 復活してから 40 日目に昇天した・・・使 1 : 3~12
  - ⑦ 父なる神の右の座に着くという預言・・・詩 110 : 1、イザ 52 : 13「彼は、①高められ、②上げられ、③非常に高くなる」（①よみから引き上げられ＝復活、②天に上げられ＝昇天、③神の右に上げられる）、マタ 26 : 64、使 2 : 33~36
  - ⑧ 使徒たちや執事ステパノの証言・・・使 2 : 22~36、3 : 13~26、4 : 33、5 : 30~32、7 : 55~56、10 : 34~43、13 : 22~41、17 : 3,18,31、26 : 22~23
- (8) 信者の死の時は、キリストが決める。信者の靈魂は、パラダイスに行く・・・ルカ 16 : 22、23 : 43、I テサ 4 : 14「イエスによって眠った人たち」、ヘブ 2 : 14~15、エペ 4 : 8~10
- (9) イエス・キリストは教会の信者を迎えに来てくださる。そのとき、先に死んでいた、教会の信者たちは復活し、地上に立ち、再び天に引き上げられる（教会の擡挙）・・・ヨハ 14 : 2~3、I コリ 15 : 51~52、I テサ 4 : 13~17
- (10) 地上に 7 年間の大患難期が来る。イエス・キリストは、地上に帰って来られる・・・ダニ 9 : 27、詩 110 : 5~7、マタ 24 : 9~30、黙 19 : 11~21
- (11) イエス・キリストは王となって平和と正義の国を建てる。その国は千年間続く・・・I 歴 17 : 1~15、イザ 2 : 2~4、9 : 6~7、黙 20 : 6
- (12) 神は新しい天地を造り、神が人と共に住んでくださる・・・黙 21 : 1~3